

TOP SEMINAR

ト ッ プ セ ミ ナ ー

本田技研工業(株) 専務取締役 **浜田 昭雄** さん

学生のレポート(要約)を紹介します

自動車整備科 2年5組14番 中村 洋人

世界中で環境や燃料などの資源の問題が問われる現在、これからのキーワードはやはり『エコ』なのだと感じました。そして、今回のセミナーでHondaが世界に向けて企業として車やバイクに関する研究はもちろんのこと、家庭のエネルギーに対する開発などの活動も行っていることを知ることができました。私が今後、関わっていく車の技術もエコを前提として省エネルギーや再生可能エネルギーを利用していく方向に切り替わって行くのがよくわかりました。

それらが実現されれば今よりも高度な電子制御が増えていくことは確実で、私も整備という仕事の中で新しい技術を理解・習得していくことが重要になってくると思いました。将来の技術と共に、自分自身の意識を変えることも大切だと今回のセミナーを通して強く感じました。

一級自動車整備研究科 3年3組11番 本田 賢徹

生活する上で環境は非常に重要で、世界全体で環境負荷を減らそうとすることは、今後の生活を維持していく上でとても大切なことだと思います。今のエンジンで環境性能をより向上させ排気ガスを減らすとともにハイブリッド化やEVなどの多方面で、よりCO₂を減らすことが世界的に重要なことだと思います。使用時や販売だけでなく製造時にも気を使って、みんなが快適に生活出来るようにすることも大切だと思います。また、ただCO₂を下げると言われても生活レベルを落とすことなくCO₂を減らすのはとてもむずかしい問題であることはよくわかります。だからと言って放置することなく、より開発を進めていき、今の快適さを維持してCO₂を減らせるよう努力することの大切さを感じました。

エンジン性能向上だけでなく、電動化やハイブリッド車、燃料電池車の開発にも多数のメーカーが取り組んでトータルでCO₂を減らしていく研究をしているのは良いことだと感じました。



ホンダ学園ではどのように取り組んでいるのか、今後はどう年に一度、ホンダの役員によるトップセミナーを開催して2050年に基準年から50%削減目標がいつから始まり、全世界レベルで50%削減になること、先進国では3分の1にしなければ達成できない厳しいものであるとデータを基に説明していただきました。

だき開催いたしました。浜田さんは自動車の開発における生産技術やプロセスエンジニアの分野で仕事をされてこられました。セミナーでは地球規模の問題となっている環境問題に対してホンダが

「電動バイクに関する質問」、「FCXの開発はどのようになっていますか」など特に環境に関する質問がされる中、「いい質問ですね」と浜田さんが感心する場面もあり、活気のあるトップセミナーとなりました。

世の中に目を向けると、2年前に始まった世界的な景気低迷の影響は、現在でも継続しています。その影響で企業が就職の門戸を狭め、多くの若者が内定を得られないことなく年を越しています。本校でもこの影響を強く受けましたが、学生諸君の頑張りや各社のご支援で卒業までに、就職希望者のほぼ全員が進路を確定できる公算です。

今春卒業する学生諸君にとって、新しい年は極めて多忙です。自動車整備系学科は国家試験を3月に控え、自動車開発エンジニア科の学生は卒業製作のアウトプットが求められます。これからは日々が刻々と真剣勝負です。目標に向けて悔いのない時の獲得にまい進して下さい。その他の学生諸君も、来年の就職に向けての活動がスタートしています。状況が厳しいことに変わりはありません。しかし、時代の気分には負けてはいられません。どんな時代であれ、あなた自身の未来は、あなた自身が作り上げるのです。元氣よくチャレンジする姿勢が困難の壁を突破します。自動車業界も大きな潮流変化の只中に身を置きますが、それは新たな発展の歴史のスタートを意味するものです。ホンダ学園は時代や価値観が如何に変化しようと、若いみなさんの夢の実現へのサポートを更に加速させていきたいと思います。是非、今年を全員でいい年としていきましょう。



小栗 篤 校長

みなさん、新年明けましておめでとうございます。ひとり一人が、新たな気持ちで2011年を迎えられたことと思います。ホンダ学園も今年で創立35周年を迎えます。

年頭挨拶

企業研究会・企業セミナー



自動車整備科、自動車開発エンジニア科、国際自動車整備科の1年生と、一級自動車整備研究科の3年生の就職活動がスタート。就職活動に臨む準備のために企業研究会、企業セミナーを開催しました。

11月26日の企業研究会では自動車に関連する職種を理解し企業が求めている人材像を認識してもらう目的で行っていますが、今年度は小栗校長より就職氷河期と言われる現状を踏まえて精神的な自立、経済的な自立、迅速な行動の3つを挙げ、「なんとかなるだろう」という気持ちを捨て、自立した行動をするようにと話がありました。企業様からは求める人材像や仕事に関するお話、

卒業生の方には具体的にどんな仕事をしているのかをお話いただきました。これらの話をもとに2週間後に行われる企業セミナーに向けて学生たちは準備をすすめます。そのため、自分が目指す職種や方向性をしっかりと考えて何を確信するのか?どの分野の企業を聞くのかを考えていきます。その企業セミナーは各企業様が業務内容や採用に関する説明、質疑応答を各ブースにて行います。就職が厳しい状況から今年度は企業セミナーを前倒して12月9、10日に実施しました。2日間にわたり合計49社の企業様においていただき、学生たちへ就職に関する情報をよりわかりやすく伝えていただきました。また、学生たちも熱心にメモをとったり多くの質問をしていました。就職スタートにあたり学生たちはより前向きに取り組む姿勢が随所に見られました。

海外研修

訪問先では整備士、雑誌で見るアメリカよりも実際に自分の目でみて、モノに触って体験することでスケールの大きさを本と違いを感じ、世界レベルの物の見方や異文化理解が十分に深められた海外研修でした。



研修では口サンセルス周辺の観光も組み込んであり、オプションでハリウッドやサンタモニカやデイズニード、ユニバーサルスタジオなど盛りだくさんです。アメリカからしさや車やメカが好きなら日本とは規模も内容も違う博物館や4輪バギー体験なども人気で、ピーターセン自動車博物館やミッドウェイ博物館などで楽しんでいただきました。映画やニュース、雑誌で見るアメリカよりも実際に自分の目でみて、モノに触って体験することでスケールの大きさを本と違いを感じ、世界レベルの物の見方や異文化理解が十分に深められた海外研修でした。

2010年11月8日、15日にかけて海外研修を実施しました。この海外研修は、知識だけに偏らず海外での実際の経験を通じてグローバルな視点を高めることやアメリカンホンダや現地ディーラーを訪問し、ホンダのアメリカにおける活動内容を知ることです。アメリカンホンダでは社内を見学、同じ敷地内の研究所も見学しました。アメリカでのホンダの企業活動についても説明が行われ、日本との自動車ビジネスの違いを実際のデータや過去の事例から学びました。広大なアメリカンホンダの敷地内で昼食会や現地従業員とのコミュニケーションをはかるミニホームステイなども組み込まれています。

研修では口サンセルス周辺の観光も組み込んであり、オプションでハリウッドやサンタモニカやデイズニード、ユニバーサルスタジオなど盛りだくさんです。アメリカからしさや車やメカが好きなら日本とは規模も内容も違う博物館や4輪バギー体験なども人気で、ピーターセン自動車博物館やミッドウェイ博物館などで楽しんでいただきました。映画やニュース、雑誌で見るアメリカよりも実際に自分の目でみて、モノに触って体験することでスケールの大きさを本と違いを感じ、世界レベルの物の見方や異文化理解が十分に深められた海外研修でした。

1月1日付で着任しました小日向と申します。ホンダ学園の一級自動車整備研究科第6期生です。私は自動車総合サービスクラスの経営者として社会人既卒者で入学し、修学中の4年間も含めて販売、サービス、提携のオートアクション代行、点検整備、修理、保険などの仕事を12年間やってきました。これらの経験を活かして、学生目線で「明るく、楽しく、ポジティブ」にがんばりますのでよろしくお願い致します。

1月1日付で日本営業本部地域事業企画室より学生部に赴任しました藤井です。私は本田技研入社時から主に国内の二輪事業に携わり、二輪ディスプレイタワーでの営業や本社企画、販売、収益管理業務など二輪一筋ながら数多くの業務を経験してきました。今後は、今までの自らの経験やノウハウに頼ることなく、常に環境変化に敏感にかつ柔軟な発想で行動することを心掛けていきますのでよろしくお願い致します。

着任しました



小日向 寛貴



藤井 隆史

Honda四輪サービス技術コンクール 全国大会

11月10日に第31回Honda四輪サービス技術コンクール全国大会の実技競技が本校で開催されました。この大会はサービススタッフのレベルを高めるために開催されています。競技内容はお客様への適切な応対やアドバイス、故障箇所の的確な診

断、そして修復する早さ・正確などを競い合います。卒業生の多くがこの大会に参加して日本一を目指して頑張っています。今年度も関東校の卒業生がサービスエンジニアコース、法人チームコース、メンテナンスコンテストの各分野で表彰されました。



サービスエンジニアコース			
優良賞	Honda Cars 東京中央 高円寺店	浅岡 和明 さん ('02卒)	
	Honda Cars 山口 新下関店	永尾 洋矢 さん ('00卒)	
法人チームコース			
優秀賞	Honda Cars 東京中央	高山 秀信 さん ('99卒)	
		平賀 健 さん ('99卒)	
		五十嵐哲朗 さん ('99卒)	
メンテナンスコンテスト			
優良賞	Honda Cars 中央神奈川 小田原中央店	斉藤 大地 さん ('01卒)	

研修終了証を手に自信にあふれた表情のメンバー



本校の国際自動車整備科の2年次のカリキュラムには海外でのインターンシップがあります。9か月間、ニュージーランドの現地ディーラーでインターンとして働き、給料をもらい、自立しながら自動車整備や英語力を高め、さらにいろいろなものへチャレンジして国際感覚を身につけることを目的としています。今年度は5名が参加し、去る12月、この研修が終了するのに合わせて、現地で発表会が行われました。発表会での持ち時間は15分。一人ずつ、この9か月間に経験した仕事やさまざまな活動、学んだこと、失敗談などについて、すべて英語でプレゼンしました。

全員が3月に来た頃と比べると、英語は飛躍的に上達し、自動車整備も立派にできるようになりました。もうどちらも仕事で困らないレベルです。でも、変わったのは英語や整備だけではなく、みんな精神的・人間的にとても大きく成長しました。これについては、NZでの発表を聞いていた一人の方がプレゼン後に次のように(英語で)コメントしています。『今の君たちを両親が見たら、自分の子供だと気付かないんじゃないかな。(そのくらい人間的に逞しくなった!)』。きっと、NZの大らかな人々と環境が彼らをここまで成長させたのでしょう。緊張の中、無事プレゼンは終了し、NZホンダの社長様から修了証と記念品が贈られました。感動して涙を浮かべる学生もいました。

帰国後の彼らには、次は就職活動と資格取得という試練が待っています。特に就職については超氷河期とも言われている昨今ですが、この研修で培ったチャレンジ精神で無事乗り切ってくれることでしょう。

尚、今年度は期間限定での海外研修プログラムも行われ、一級自動車整備研究科から1名、自動車整備科から1名も同様の研修に参加し、こちらも発表会を行い、無事に全日程を終えました。



海外インターンシップ・プログラム研修発表会

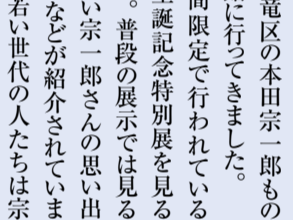
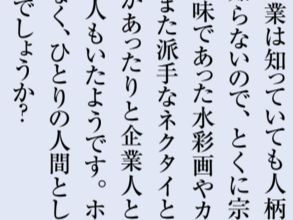
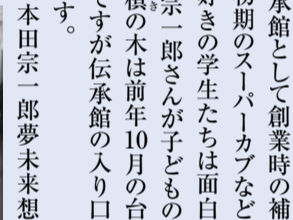
本田宗一郎 ものづくり伝承館訪問

この伝承館はNPO法人本田宗一郎夢未来製造倶楽部によって運営されており、理事長の大橋さんからは宗一郎さんの小学生時代の逸話として、早弁するためにお寺の鐘を正午より30分も早く打ち鳴らしたことや遊んだ大池の説明を楽しく聞かせていただきました。

12月18日に学生25名と先生9名が、浜松市天竜区の本田宗一郎ものがたり伝承館に行きました。今回は期間限定で行われている本田宗一郎生誕記念特別展を見るのが目的です。普段の展示では見ることのできない宗一郎さんの思い出の品や愛用品などが紹介されています。また、若い世代の人たちは宗一郎さんの偉業は知っていても人柄をほとんど知らないもので、とくに宗一郎さんの趣味であった水彩画やカメラの展示、また派手なネクタイとハンチング帽があったりと企業人とハンチング帽があたりと企業人と

は違った部分を発見できた人もいたようです。ホンダの創業者という一面でなく、ひとりの人間として理解が深まったのではないのでしょうか? もちろん、ものづくり伝承館として創業時の補助エンジン付きの自転車や初期のスーパーカーなども展示してあって、バイク好きの学生たちは面白そうに観察していました。宗一郎さんが子どもの頃によく登ったといわれる植の木は前年10月の台風の時に倒れてしまったのですが伝承館の入り口の看板と展示物になっています。

この伝承館はNPO法人本田宗一郎夢未来製造倶楽部によって運営されており、理事長の大橋さんからは宗一郎さんの小学生時代の逸話として、早弁するためにお寺の鐘を正午より30分も早く打ち鳴らしたことや遊んだ大池の説明を楽しく聞かせていただきました。



注目の部活動 同好会活動 紹介

本校の部活動が盛んなことは皆さんご存じのとおりですが、新しくできた同好会や各部の詳細な内容はなかなかわからないと思います。そこで、今回は『モータースポーツ同好会』と『メカニック部』にスポットを当てて詳しく紹介したいと思います。

モータースポーツ 同好会

みなさんはワンメイクレースって知っていますか? Wikipedia(フリー百科事典『ウィキペディア』)ではモータースポーツのひとつの様式。全参加者が同一仕様のエンジンを使用したり、同一仕様のレーシングマシンに搭乗したりして行われるレースとなっています。その中にシビックを使ったワンメイクレースがあります。今年度からモータースポーツ同好会が本田技研工業(株)埼玉製作所の「むさしの会」自動車部と一緒に参戦しています。10月24日にはツインリンクもてぎでの「シビックレース」に学校名が入ったシビックと共に学生達が元気に参加してきました。レースでメカニック・サポートをすることはマシンの造りやクルマの基礎知識を習得するチャンスでもあります。そういった方向でもぜひ活かしてほしいと思います。レースをやってみてという人は『モータースポーツ同好会』へ入ってみてはどうでしょうか?



メカニック部

メカニック部の活動は2輪のレースにおいてピットでレースメカニックとして参戦するというものです。とはいえレースで何をすればいいのかわからないから普段の練習でピットワークがどんなものかを考え、レースを想定して練習をしています。2輪が好きというなら「8耐」という言葉を聞いたことのある人もいるでしょう。鈴鹿で行われる国内では最大級の耐久レースです。その名の通り8時間を走るのですが、そのピットでチームメカニックとしてレースを支えます。特に今年度の鈴鹿8耐では総合で10位という好成績を残しています。走行するライダーと同様に時間との戦いのピットワークとチームで戦う一体感は何よりレースの醍醐味と言えます。鈴鹿8耐以外にMFJ全日本ロード選手権シリーズにも参加しています。



エコラン競技自体は近年のエコロジーへの関心から脚光を浴びており、11月にHonda広報部が開催したマスコミ向けイベントの中で本校のエコランカーが紹介されました。エコラン部の学生たちが伊東社長にマシンを説明するといった場面もありました。

10月10日にツインリンクで行われたエコマイレージチャレンジ2010もてぎ大会に参加しました。この大会は本田技研工業(株)主催で規定された走行距離を時間内に走行し、走行前と走行後の燃料の重量を計測して、最も消費量が少ない(低燃費)チームが優勝となる競技です。このような競技はエコランと呼ばれ、本校からも2台がエントリーしましたが、残念ながら上位入賞はできませんでした。



エコラン部

ライダーの表情も普段以上に気合が入っていました。その雰囲気を感じた部員達もライダーがレースに集中できるように最大限のサポートを行いました。シーズン当初は何もわからず戸惑っていた1年生部員もレースの流れと自分の役割を把握し、自ら考えて行動できるようになりました。



オフロード部

ホンダ学園オフロード部は今年度4回目のメカニックサポートとして10月22、23日に行われた全日本MXGP大会に参加しました。参戦クラスは国際A級。「TEAM H.A.M.M.E.R. ホンダ学園」として今年度の最終戦を迎え、チャンピオンランキングが決まる重要な大会とあってチーム

テニス部

10月25日に行われた第10回文部科学大臣杯全国専門学校テニス選手権大会に初出場し、東北1位(仙台リゾート&スポーツ専門学校)、関東1位(東京スポーツ・レクリエーション専門学校)などの強豪校を相手に善戦し、ベスト8という結果を残すことができました。11月の「東京都専門学校秋季リーグ(団体戦)」では残念ながらリーグ戦、トーナメント戦のいずれも勝利にすらありませんでした。



部活動報告